

TEM-U1000N型装置の設計コンセプト

昇温スピードの優越を競う製品ではありません

内容物の状態を確認したい要望
(In-situ observation)



昇温スピードは、少しゆっくりとして
(2°C/min.)、マイルドな実験環境にする。

プログラム運転

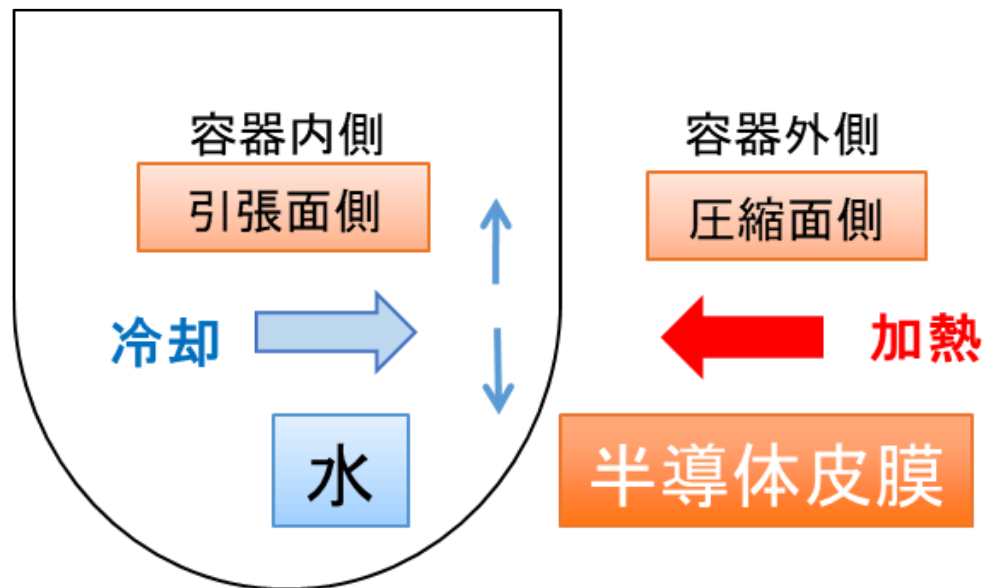


可視観察と測定データとの相乗効果

温度、圧力、粘度などの測定項目と併用

金属容器とは違う容器全面ガラス製実験容器の独自性をご理解ください

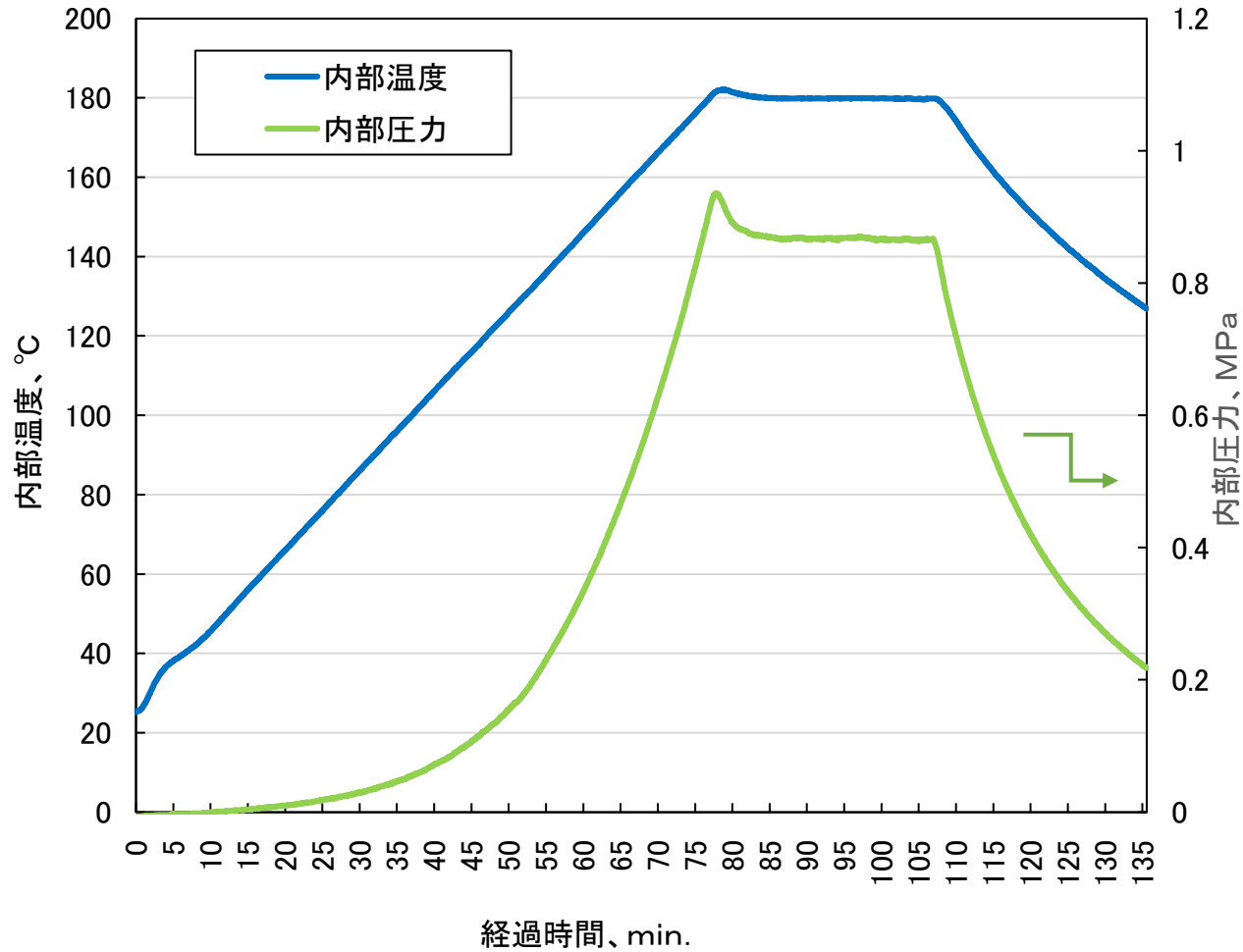
熱衝撃による破壊に注意



硝子容器の破損原因は、熱応力等により容器内側に引張り応力が働き、傷や残留ひずみ等が助長する形で破損に至るものが多い。

ガラス容器の取り扱い上の注意点につきましては、弊社カタログをご覧ください

TEM-U1000N型装置の昇温データ



※TEM-U1000型は、ヒートショックによる硝子破損を防ぐために、ゆっくりとした昇温が可能なプログラム温調器を使用することを推奨いたします

昇温試験の条件

内容物	蒸留水
仕込量	600 mL
目標温度	180°C
攪拌機回転数	200 rpm
ヒーター コーティング容量	100 V 単相 541 W
ヒーター ボリューム	100 %
温度制御方式	プログラム制御 (PID)

プロコン仕様の簡易制御盤

